

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	企画政策課	担当課長名	工藤 雄一
-----	-------	-------	-------

1. 事業概要				部・局名	みずなみ未来部	課・所属名	企画政策課
施策体系	大区分	魅力あふれるまちづくり			事業概要	昭和29年に瑞浪市制が施行され、令和6年度に瑞浪市制70周年を迎えます。市民とともに節目の年を祝うため、記念事業として令和5年度にプレイベント、令和6年度に本イベントを実施します。 令和6年度は、10月13日にみずなみ世界一プロジェクトと題し『瑞浪ポーノボークの最大の試食会』をきなめた瑞浪にて開催し、ギネス世界記録に挑戦します。	
	中区分	シティプロモーション					
	小区分	シビックプライドの醸成と多様な情報発信					
実施事業	事業名	市制70周年記念事業			翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	瑞浪市制70周年を記念して2年にわたり実施する記念事業に市民と共に参加し、継続した祝事意識を醸成することで、令和6年度より開始する第7次瑞浪市総合計画の目標の達成に向け、市民と行政が一体感を強めるきっかけとします。					
	目標指標	参加応募者数					
	事業期間	R5～R6					
	総括表掲載	掲載なし					
	二次評価対象	○					
予算科目	会計		款	項	目	事業名	
	001 一般会計		002 総務費	001 総務管理費	007 企画費	02010719	みずなみ世界一プロジェクト実施事業

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：人）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起債	基金	その他	一般財源	計			
6	3,700					3,840	7,540	5	10,000.0	10,000.0
7								6	2,002.0	800.0
8								7	0.0	0.0
9								8	0.0	0.0
10								9	0.0	0.0
11								10	0.0	0.0
12								11	0.0	0.0
13								12	0.0	0.0
14								13	0.0	0.0
15								14	0.0	0.0
計	3,700					3,840	7,540	15	0.0	0.0
担当課評価	実施状況	市内外在住の2,002名の応募者から選ばれた800名のうち、691名が参加し、664名の完食をもってギネス世界記録に認定されました。当日のきなあつ瑞浪の来場者数は、令和6年度で最多の4,037名を記録し、特産品である「瑞浪ポーノボーク」の認知拡大に寄与しました。イベントの準備片付け等を業務委託することで職員の省力化を図りました。								
	問題課題	本事業は、市若手職員で結成されたプロジェクトチームを中心に事業を進めました。挑戦内容の募集から決定、イベント参加まで多くの市民が参画できるよう工夫しましたが、次回の周年記念事業の実施にあたっては、企画の段階から市民が参画できる体制をとるか検討が必要です。								
	具体的改善内容	市民が企画段階から参加することによって、市民と行政間に、より一層の一体感が生まれ、祝事意識の醸成に繋がることが想定されますが、意思決定のスピードが遅くなる等の課題もあるため、どのような体制で行うか慎重に検討します。								
査定							次年度方向性	完了		

3. 達成度評価

達成度	A	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	D
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	C
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	A
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	B

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	〇〇 〇〇
---------	-------

(2) 個人総合評価

評価	C
意見・コメント	

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	